

41024

教科書文庫

4
760
41-1910
01304 49395

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

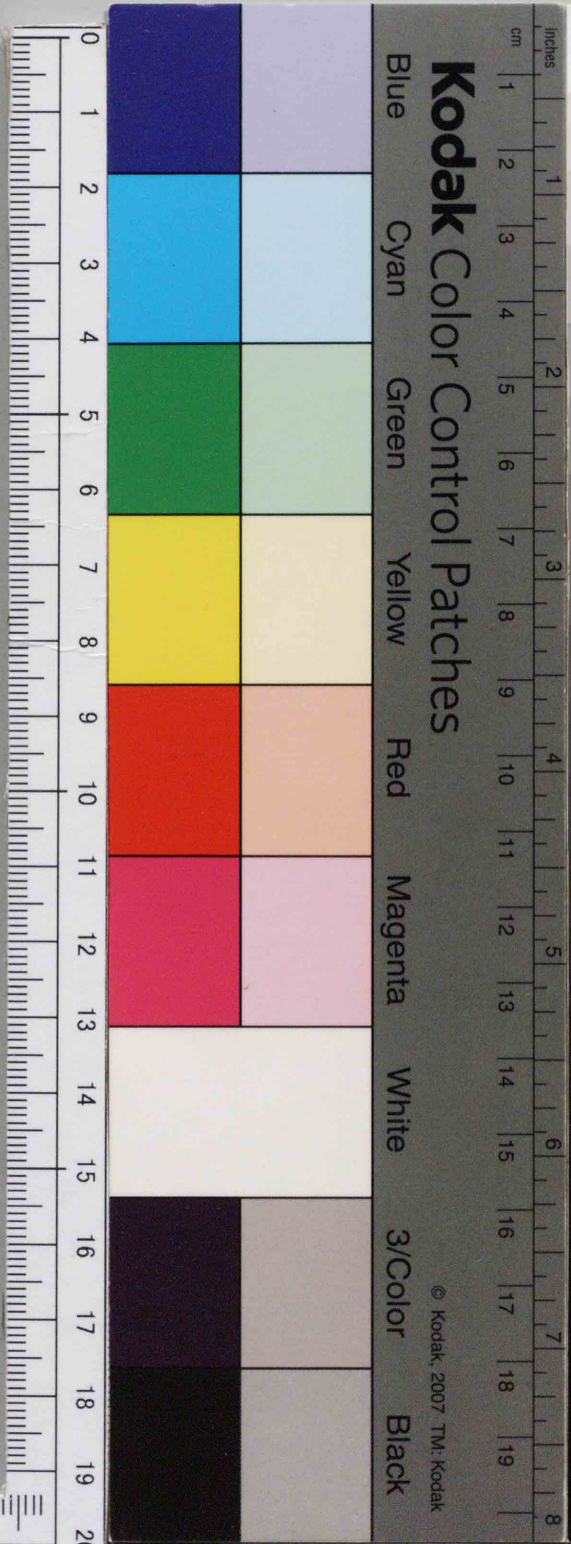


© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



統 教
合 科
中 學
唱 歌

第三卷



友田

教科
綜合
中學唱歌

【第三學年用】

第三卷 目次

【第一學期】

單音唱歌

一	古武士	三
二	初旅	七
三	敵襲	九
四	佐藤信淵	一三
五	水邊の夏	一五
【第二學期】		
六	突貫	一七
七	秋の夜半	一九
	輪唱歌	
一	歌の徳	二〇

目次

広島大学図書

0130449395



二 誠の道	二
三 秋の實り	三

附(二)重音式音階.....(三)

二重音唱歌

一 小菊	五
二 來れ冬休み	七
三 勤勉	九
四 出陣	三
五 雪中登山	三
六 旅情	五
七 海の日の出	七

【第三學期】

○附錄
樂典
英語唱歌

單音唱歌・輪唱歌之部

No. 1.

古 武 士

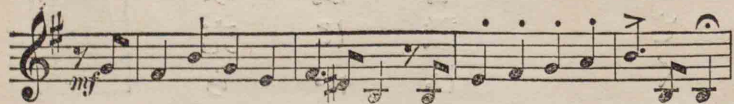
古
武
士



(一) チカクバメニミヨ シューザヤアノダイトウ
(二) コウキウフクロニチーサマルトキヨト



ダテニハササザルソーセーソノタマシロ
テンカナコゾリテハナーニハエフトモ

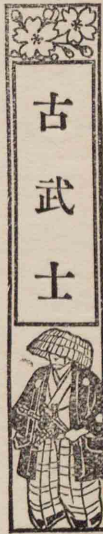


アアコソカネミツ アアコソカネミツ
、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、



シストモケガサジヤイバノヒカリハ
イツカハラスレンナシガキレアサ

(一第)



杉
谷
代
水

古
武
士

(一) 近くば目に見よ、 朱鞆の大刀、

伊達には差さざる 祖先の魂、

あゝこの兼光、 あゝこの兼光、

死すとも汚さじ、 刀の光は。」

(二) 剛弓袋に、 をさまる時世と、

天下を擧りて 花には酔ふとも、

あゝ我が兼光、 あゝ我が兼光、

いつかは忘れん、 汝が切味。」

(二第)



井上經足

(一) 揚る雲雀 萌ゆる草、 望み充ちし 春は來ぬ。

學ぶわざも 暇いとあり、 胸にかゝる 雲もなし。

未だ知らぬ 國を訪ひ、 智識ひろく 需むべく、

いでや。

わが旅路こゝろみん、 櫻さく山路に、

わが船路こゝろみん、 霞立つ海路に、

(二) 霞むみ空 光る風、 心のどか 春の旅。

月を踏みて 宿を出で、 花を趁おそひて里に入る。

見るも聞くも 新らしく、 智識ひろく 需むべし。

かくて。

わが宿り定めゆく、 雉子の鳴く谷間に、

わが泊り定めゆく、 鷗とぶ磯邊に。」

No. 2.

初 旅

Moderato. *Volksweise.*

初 旅

(一) アー ガルヒー パーリモ ユールクー サ
 (二) カースムミー ソーラヒ カールーカーゼ

ノ ソミミ チーシハ ルーハキー ヌ
 コーコロノ ドーカハ ルーノターピ

マナーブラザーモイトーマアリ
 ツキーチフミーテヤドーナイデ

七

ムネーニカカールクモモナシ
 ハナーチオヒータサトニイル

(續)

初 旅

初 旅

イマダシラーク ニーチートーヒ
 ミルモキクモアターラーシーグ

rit.

チシーキヒロクモトムベクイデーヤ
 、 、 、 、 、 、 、 、 、 シカクテ

P.

ワガタビゴコロミンサクラサクヤマダニ
 、 、 ヤドリサダメユクキジノナクタニマニ

六

ワガフナゴコロミンカスミタツフナダニ
 、 、 トマリサダメユクカモメトブイソベニ

No. 3.

敵襲

社ニ 獨逸曲

敵襲

(一) ス ト ヤ テ キ タ イ グ
(二) ト ビ チ ガ フ ジ ユ ワ グ ラ ム

キヤ ウ シ ヴ ス ス ハ ヤ キ ク
ス サ マ シ ス コ コ ヤ イ マ

ケ ツ シ ノ ト キ ノ コ エ
キ キ ナ リ シ ヲ ヲ ハ イ ノ

ウ テ ウ テ ウ テ カ ノ ヤ ミ ノ モ ナ
、 、 、 、 、 カ ト ク タ マ マ ノ カ ギ

カ リ ウ ミ テ カ シ コ メ ガ ル ケ テリ

ウ チ カ ハ セ テ キ ノ ア タ イ
コ コ チ ヲ ヲ ヲ ヲ テ チ テ カ ハ セ

(一) すはや敵、大軍強襲す、
すはや聞け、決死の鬨の聲。
打て、打て、彼の、闇のもなか、
打て彼處、目かけて打ち返せ、敵の部隊。」

(二) 飛びちがふ、銃丸凄まじく、
こゝぞ今、危機なり勝敗の。
打て、打て疾く、たまの限り、
見よ敵は、ひるめり心地よや、打ち返せ。」

(三第) 敵襲

杉谷代水

(四第)

佐藤信淵

佐々木吉三郎

出てては耕・牧・漁・鹽の法を説き、

入りては、

三百餘種の書ふみを書く。

心血濺いぎし功績いは顯そはれ、



沼は田となり、

野は畠となり、

山に黄金の花咲きにけり。

振へや起てや、

我國民こくにたみよ、

振ひ起せや、

なりはなひの道みち。

世界の諸國が、

劣らじ負けじと、

互に争ふ學問工商の、

軍いくさのもとでは まこれこの道みちぞ。

振ひ起せ、 國のため。

No. 4.

佐藤信淵

佐藤信淵

應刃込行 編者



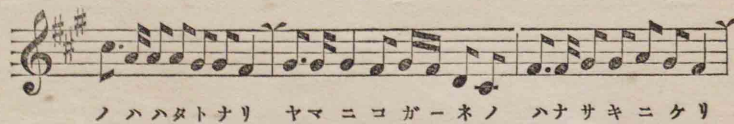
mf イテテハ カウボクギョエンノ ホウチトキ



mp イリテハ サンビヤクロシユノ フミナシク



mf シンケツソツギシ イサチハアラハレ マハタトナリ

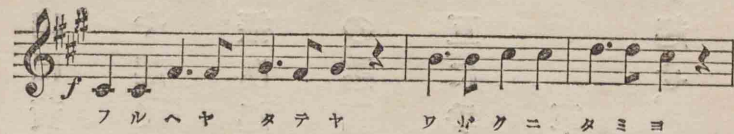


ノハハタトナリ ヤマニコガエノ ハナサキニケリ

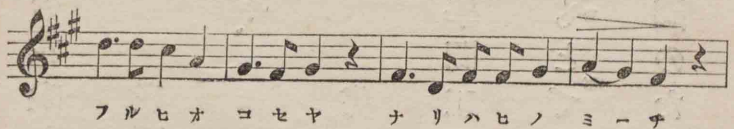
(續)

佐藤信淵

佐藤信淵



フルヘヤ タテヤ フシクニ タミヨ



フルヒオコセヤ ナリハヒノ ミーチ



P セカイノシヨクガ オトラジマケツト タガヒニアラソフ



ガクモシコウシヨウノイクサノモトデハ コレコノミチゾ



mf フルヒオコセ クニノタメ

No. 5.

水邊の夏

水邊の夏



(一) スーズシヤカハカゼーユーキカフシラホノー
(二) オーヨギニツミテハーコーカゲニシヨヲムー



ナーガメモオモシローコーブネナウカベテー
ウーナツリアミウチーキョーウコソツツキザレー



ナガレノマニマニートモトカクカタラフー
アサユウツキノヨー、、、、、オクリシー



ターノシキコノナツーココニシスゴーサ
、、、、、、、、、、、イカデカワスーレー

二五

水邊の夏

(五第)



水邊の夏

桑田春風

二四

(一) 涼しや河風、行き交ふ白帆の、

眺めもおもしろ、小船を浮べて、

流れのまにまに、友とかく語らふ、

楽しきこの夏、此處にし過さん。

(二) 游泳に倦みては、木陰に書を読む、

魚釣り、網打ち、興こそ盡きざれ。

朝夕、月の夜、友とかく送りし、

楽しきこの夏、いかでか忘れん。

No. 6.

突 貫

Maestoso. *Rouget. De Lisle.*

突 貫

ヤマニ ミチノニ アフレ マンモ グミナテ キ

タイ シスルヲガ クン シキ モユルゴト シ

シノ クンノガウレイ ハ マナド モイマダ クダラズ

アラシスギ テ テンチタダシツ カ

ミヨ ミヨ ヒノミ ハタ。 タカークアケル

cresc.

ト キー ハイ マ ヲ トッ カン トッ カン

(續)

突 貫

突 貫

ス ス メ ヤ クー ニー ノ ミ タ メ

(六第)

突 貫



大和田建樹

山に充ち野にあふれ、満目みな敵。
 對峙する我軍、士氣燃ゆる如し。
 進軍の號令は、
 待てども未だ下らず、
 嵐すぎて、天地ただ静か、
 見よ、日の御旗、
 高く揚ぐる時は今ぞ、
 突貫 突貫、
 進めや 國のみため。』

No. 7.

秋の夜半

秋の夜半



(一) ア キ ノ ヲ ヨ ハ ノ ミ ソ ラ ス ミ テ
(二) イ ヘ チ ハ ナ レ ク ニ チ イ テ



ツ キ ノ ヒ カ リ キ ヲ ク シ ロ ク
ヒ ト リ ト ホ ク マ ナ プ ヲ ガ ミ



カ リ ノ ム レ ノ チ カ ク ク ル ヲ
オ ヤ チ オ モ フ オ モ ヒ シ ゲ シ

12



ヒ ト ツ フ タ ツ イ ツ ツ ナ ナ ツ
カ リ ノ コ エ ニ ツ キ ノ カ ゲ ニ

(一) 秋の夜半の 月ツキの光、 雁ガの群ぐんの 一つ二つ、 五つ七つ。
み空澄みて、 清く白く。 近く来るよ、

(二) 家をはなれ ひとり遠く、 親を思ふ 雁の聲に、
國を出でて、 學ぶ我が身。 おもひ滋し、 月の影に。」

(七第)



徳々木信綱

秋の夜半

11

No. 2.

誠の道

誠の道

I

(一) セ イ テ ン ハ ク ツ ツ フ ギ ャ ウ テ ン チ
 (二) セ イ セ イ ド ウ ド ウ フ ヘ ン フ ト ウ

II

ハ サ ザ ル コ コ ロ ツ ヒ ト ノ シ セ イ
 キ シ ン モ ナ カ ス ハ 、 、 、 、 、

三

(一) 青天白日、俯仰天地、
 耻ぢざる心ぞ
 人の至誠。」

(二) 正々堂々、不偏不黨、
 鬼神も泣すは
 人の至誠。」

大和田建樹

誠の道



No. 1.

歌の徳

歌の徳

I

(一) コ コ ー ロ ナ タ ネ ノ
 (二) ア メ ー ツ チ タ ウ ネ キ
 (三) イ チ ー シ ノ コ ト モ

II

コ オ ト メ ノ イ ロ ー カ
 ホ ニ ガ ミ カ シ ン ト ー プ
 マ レ ハ チ ト ー セ

歌の徳

三

(一) 心をたねの
 言葉の色香。」

(二) 天地うごき
 鬼神感ず。」

(三) 一時の言も
 譽は千年。」

大和田建樹

歌の徳





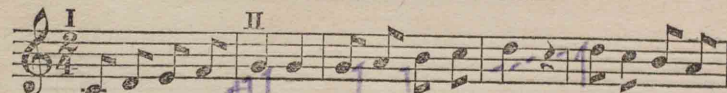
二重音之部

(二重音式音階練習)



No. 3.

秋の實り



(一) ヤツカノイネホニイテテミノリハ
 (二) コガネノナミウチヨセテユダクキ
 (三) ナルコメオトヒビキツツカリイレ

秋の實り



イーマーダニミチ×
 イーローココチヨヤ (チカヅキ×)
 ドーキーチカヅキ×

秋の實り

大和田建樹

- (一) 八束の稲、穂に出て、
みのりは今、田に満ちぬ。
- (二) 黄金の波、うち寄せて、
ゆたけき色、心地よや。
- (三) 鳴子のおと、響きつつ、
刈入レ時、近づきぬ。

No. 1.

小 菊

Moderato. G. Richter.

小 菊

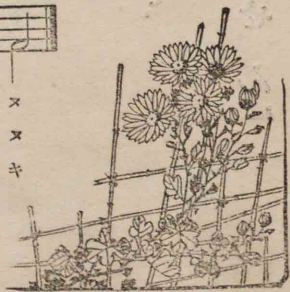
(一) マ ガ キ ニ ミ ダ ル ル コ ギ ク ハ
 (二) ト モ ト ヲ エ タ ル コ ギ ク モ
 (三) ニ ハ モ コ レ ヨ リ シ バ シ ハ

mf

ア イ ラ シ ミ ル ヒ ト ビ ト ニ
 シ ホ ラ シ ア キ シ リ ガ ホ ニ
 ニ ギ ハ フ コ ギ ク ノ サ カ ヲ

P

マ カ セ テ サ キ ャ
 ケ サ サ キ イ デ ャ
 ア ハ レ ツ フ カ キ



112

(一) まがきに 亂るる、 小菊は 愛らし、
 見る人 びとに、 まかせて 咲きぬ。
 (二) ひともと 植ゑたる、 小菊も しほらし、
 秋知り がほに、 今朝咲き 出でぬ。
 (三) 小庭も これより、 しばしは にぎはふ、
 小菊の さかり、 あはれぞ 深き。」

(一第)

小 菊

蘆田 恵之助

小 菊

113

No. 2.

來れ冬休み

Allegretto. *Mozart.*

來れ冬休み

(一) キ タ レ ヤ フ ユ ノ ヤ ス ミ ノ
 (二) 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、

mf

ト キ コ キ ヲ ウ ニ ユ キ テ
 、 、 コ ス キ ニ ユ キ テ

ワ ガ ヤ ニ ユ キ テ タ キ ビ ノ
 マ キ バ ニ ユ キ テ コ ホ リ ナ

二七

ソ ヌ ノ マ ト キ ナ セ ヂ
 ス ベ リ ユ キ ナ ゲ セ ヂ

(一) 來れや冬の、 休みの時、
 故郷に行きて、 我家に行きて、
 たき火のそばの、 圓居をせん。

(二) 來れや冬の、 休みの時、
 湖水に行きて、 牧場に行きて、
 氷を滑り、 雪投せん。

(二第)



大和田建樹

來れ冬休み

三

No. 3.

勤 勉

快活ニ 獨逸曲.

勤 勉

(一) ツ トメハタ ラケ ホ ノガホシ ム ナ
 (二) ト キハカヘ ラズ ア ダニスゴ ス ナ

ト キハコガ ネ ナ スベキコトハ
 オ イハキタル スキセイムシハ

モコレタラジ タノムナアスーナ
 ダンツノハダツ トメヨハゲーメ

.....(The time is money.).....

(一) 勤め働け、己が本務を、
 時は黄金。
 爲すべき事は、日もこれ足らじ、
 頼むな明日を。

(二) 時は返らず、
 老は来る。
 あだに過すな、
 酔生・夢死は、男兒の耻ぞ、
 勤めよ 勵め。

(三第)



桑田春風

勤 勉

六

No. 4.

山 陣

Andantino. *Fr. Silchen.*

出 陣

(一) イ ザ ユ ケ ヤ ヲ ガ コ ー ラ
 (二) イ ヘ オ モ フ ナ ミ ダ ー ハ

オ マ ホ ス ギ ラ ミ ナ ノ ミ ナ イ ノ ク ハ ー サ デ

ギ イ ニ ザ イ サ サ ラ ム バ ー ナ チ ノ チ ー コ ヲ ー ガ ヘ

タ ミ ツ ハ ー ベ カ キ ロ ー ハ シ コ ギ ノ オ ト モ ー キ シ

イ ザ ユ ケ ヤ イ ー ザ レ ユ ラ ー ケ チ

(一) 父 行けや我が子等、 大君のみいくさ。
 義に勇む男の子が、 起つべきは此時。
 いざ行けや いざく。

(二) 子家おもふなみだは、 盛荒雄の名の耻。
 いざさらば父上、 身は軽し義重し。
 待ちますな 我等を。

(三) 父勝ちほこる我が軍、 めざましの功績。
 世に響く譽の、 その中に彼あり。
 あな嬉し 彼あり。

(四第)

出 陣



杉谷代水

出 陣

No. 5.

雪中登山

Moderato. *pp* *Volkstied.*

雪中登山

(一) ハ ナ カ ト ミ エ テ フ リ ー ク ル ー ユ
 ヤ マ ヨ リ タ カ ク ツ モ ー レ ル ー カ
 (二) ツ ル ギ ノ コ ト ク ミ チ ー キ ル ー カ
 ト モ エ ノ コ ト ク フ キ ー マ ク ー カ

キ ケ タ テ テ ス ス マ ン キ ー
 シ ノ ギ テ ノ ホ ラ ン ミ ー

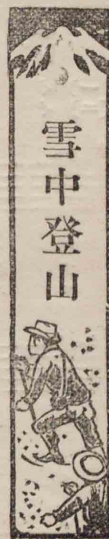
タ レ ヨ ト モ (イ ザ) ユ キ ノ ト ザ ン
 ネ ニ ハ ヤ ク (、) サ ム サ ツ ラ サ

ア ナ リ ー レ ー シ オ ー モ シ ロ
 ミ チ ナ ー ラ ー ス ヲ ー ガ タ メ

(一) 花かと見えて、 降りくる雪。
 山より高く、 積れる雪。
 蹴立って進まん、 來れ友よ、「いざ。」
 雪の登山、 あな嬉し、おもしろ。」

(二) 劍つるぎの如く、 身を切る風。
 巴つるぎの如く、 吹き卷く風。
 凌ぎて登らん、 峯に早く、「いざ。」
 寒さつらさ、 身を馴らす、わがため。」

(五第)



雪中登山

大和田建樹

○「いざ」は、低音部のみ唱ふるものとす。

No. 6.

旅情

旅情

Andante. *F. Glück.*

(一) ユ フクモ - マヨ - フチ チノタ - カネ -
 (二) ナ ハテノ - フセ - ヤコ コソヤ - ドリ -

カ ヘリミ - スレドイヘザ - ミエズ -
 ナ ミキノ - マツニ アラシサ - エテ -

三

dim.

フル - サト - タチ - テ - ケフハイク - カー
 ア - レ - サト - メグ - ル - エメハヤ - ル -

(二) 繩手の伏家

並木の松に、嵐さえて、

故郷めぐる、夢は破る。』

(一) 夕雲まよふ、

顧みすれど、家路見えず。

故郷たちて、今日は幾日。』

(六第)



鳥居 悦

No. 7.

海の日の出

Agitato. *Volksweise.*

海の日の出

ウー ミハタタ ミナシケ } シケル } ゴト
 ナー ギテノドケキハル } ハル } アシ

ク } トク } アーレヨアレ } ロト } ミー
 ゴタ } シタ }

ルガウチニ } ソーラニ } ッッ

ケル } ナー } ミチハナレ } イッ

シ } アサ } ヒ } フー } トク } アカク
 イ } ッル } ア } サ } ヒ }

七

(一) 海は疊を敷ける如く、 風ぎてのどけき春の朝
 あれよあれよと、 見るが中に、
 空に續ける、 波を離れ、
 出づる朝日、 太く赤く。

(二) 燃ゆる鏡は空に懸り、 金の飛龍は波に躍る。
 港はなれて、 出づる白帆、
 翼つらねて、 かける鷗、
 朝日うけて、 嬉しげに。」

(七第)



海の日の出



大和田建樹

海の日の出

六

第一附錄

樂典大要



樂典大要

〔第二卷の續き〕

目次

第十七章	音域	三九
第十八章	唱歌の種類	四〇
第十九章	一音と半音	四五
第廿章	音程	四五
第廿一章	協和音程及び不協和音程	四九
第廿二章	音階	五〇
第廿三章	半音階と雅樂音名	五九
第廿四章	各種旋法の發見法	六一

樂典大要 (第二卷の續き)

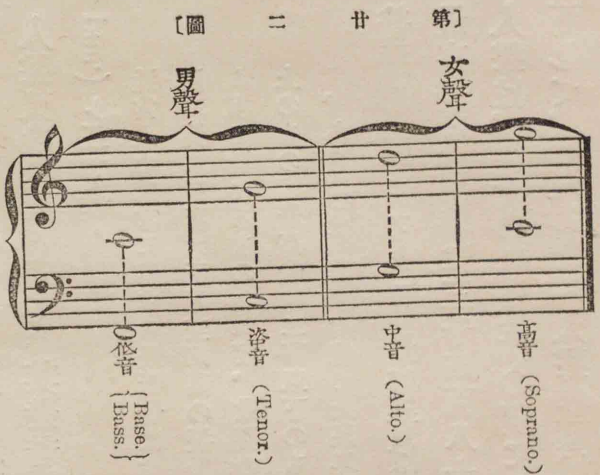
第十七章 音域

人聲又は樂器にして、其發音し得る高低の限界を稱して音域(Com-pass)と云ふ。

通常人の聽官に達する最低音は、一秒時間に十六乃至卅振動を有し、其最高音は、同時に三萬六千乃至四萬の振動を有するものとす。但し、此區域は、各個人によりて異なるものなれば、歐洲の學者間にも亦種々の説あれども、最低音は卅以上のもの、最高音は二萬以下のものならては、容易に聽取し得ざるものとす。故に、あらゆる樂器は、總て此限界内に於て作らるゝものなり。

普通用「堅ピアノ」の最低音は、一秒時間に二十七、八振動を有し、其最高音は、同時に三千四百八十餘振動を有するものとす。

人聲は、男女の性・長幼の別によりて、其區域を異にするものとす。而して、成人したる人聲の區域は、通例左の四種となす。〔第廿二圖〕



- (1) 高音及び中音は、之を高音部譜表に、次中音及び低音は、之を低音部譜表に記載するを通例とす。
- (2) 人聲を分つて男女聲各々三部宛となすとあり。此場合には、女聲の高音と中音との中間區域・嬰へ「變ロ」を次高音部 (Mezzo-Soprano.) と稱し、男聲の次中音と低音との中間區域「ホ」「ト」を上低音 (Bariton.) と稱す。
- (3) 成人したる男聲は、其女聲に比して、概ね一八音低きものとす。
- (4) 變聲期前なる男女兒童の音聲は、女聲と殆んど同一高度の區域なり。

第十八章 唱歌の種類

通常用ふる唱歌には、左の三種あり。

- (一) 單音唱歌
- (二) 輪唱歌
- (三) 三重音唱歌

單一なる聲音の進行より成る唱歌を單音唱歌 (Unison.) と云ふ。

○第一卷、第二卷の全部、及び本書の初に於けるが如き唱歌これなり。

單音唱歌と同一形式にして、之を豫め組分けせられたる各部によつて、一定の小節を距てつつ、順次に反復合唱せらるゝものを輪唱歌 (Round Song.) 又は Canon.) と云ふ。

○故に輪唱歌は、一面、單音唱歌とも見らるべく、又一面、三重音唱歌とも聞かるべきものなり。されば、單音より三重音に移る階梯となるものとす。本書の例、即ちこれなり。

單音唱歌に、それより低き音部を附して、調和上の趣味を添ふるものを重音唱歌 (Double chorus.) と云ふ。

通常用ふる重音唱歌に、又左の三種あり。

- (1) 二重音 (Two parts.)。單音唱歌に、一列の低き和音を附したるものなり。
- (2) 三重音 (Three parts.)。單音唱歌に、二列の低き和音を附したるものなり。

(c) 四重音 (Four parts)。單音唱歌に、三列の低き和音を附したるものなり。重音唱歌は、前章の聲域を利用して作られたるものとす。故に、唱歌者は、各自の聲域により、其一列を分擔して合唱するを常とす。男女兩聲域によれる四部合唱歌をコーラス (Chorus) と云ひ、重音唱歌中、最も重要なものなり。

男聲のみ、或は女聲のみを以て合唱する重音唱歌を單性重音唱歌と云ひ、男女兩聲を以て合唱する重音唱歌を複性重音唱歌と云ふ。通常行はる、單性重音唱歌は、二部若くは三部のものにして、複性重音唱歌は、三部若くは四部のものとす。

(1) 單音唱歌は、男女聲の如何を問はず、皆同一の曲節を歌ふものとす。

(2) 單性重音唱歌は、女聲二部合唱、又は女聲三部合唱、或は男聲二部、男聲三部合唱とも稱す。

(3) 單性二重音唱歌は、通例女聲高音—中音、男聲の次中音—低音の合唱に成り、同三重音唱歌は、女聲の高音—次高音—中音、男聲の次中音—上低音—低音

の合唱に成るものとす。

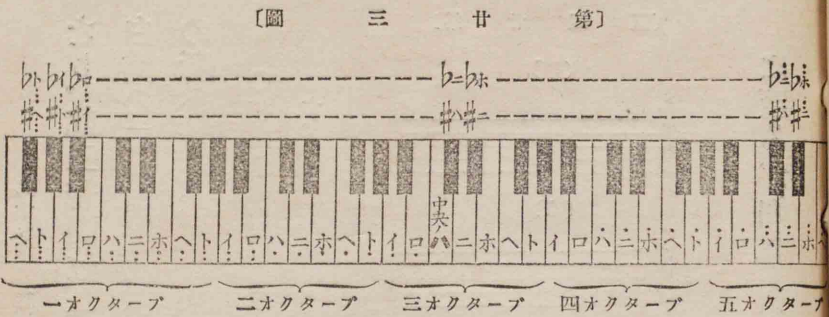
第十九章 一音と半音

音程の事を述べんには、先づ一音及び半音の意義を説くを要す。而して、之を説かんには、有鍵楽器によるを便とす。

有鍵楽器の前面に連りたる黑白の二列小盤は、之を鍵盤 (Key board) と云ふ。而して、其白色なるを白鍵 (White key) と云ひ、其黑色なるを黒鍵 (Black key) と云ふ。〔第廿三圖〕

○白鍵にて奏する諸音は、之を白鍵音と云ひ、黒鍵にて奏する諸音は、之を黒鍵音と稱す。

鍵盤上にて、白鍵と白鍵との中間に、黒鍵なき部分は、「ロ」より「ハ」、「ホ」より「ヘ」の二個所



なり。此二音間は、即ち半音(Semi tone.)の所在にして、此他連続せる白鍵の二音間、及び相接續せる黒鍵の二音間は、總て一音(One tone.)の所在なり。

○相隣れる白鍵と黒鍵との間、竝に黒鍵と白鍵との二音間は、總て半音の所在とす。

半音には、其成立に二様あり。従つて左の名稱あり。

(一)普通半音。 異名の二音間に成立つ半音、例へば、「ホ」より「ヘ」、「嬰ト」より「イ」に至るが如きものを云ふ。(第廿四圖甲)

(二)變體半音。 同名の二音間に成立つ半音、例へば、「ト」より「嬰ト」、又は「ロ」より「變ロ」

に至るが如きものを云ふ。(第廿四圖乙)

〔圖 四 廿 第〕



(1)學習者は、鍵盤の中央なる「ハ」音が、高音部譜表の「下第一加線」に相當することを悟りて、樂譜の位置と、鍵盤との對照を心得べし。

(2)有鍵盤樂器の黒鍵は、二様に命名せらるゝことも、亦第廿三圖につきて知るを要す。

(3)普通半音は全音階的半音と、變體半音は半音階的半音とも稱す。而して、普通半音は普通音程に、變體半音は變體音程に屬すること、次章に之を説くべし。

第廿章 音程

單一なる聲音の上下變動して進行し、吾人に一種の美的快感を喚起せしむるものは、之を名づけて旋律又は曲節(Melody.)と云ふ。

曲節には、其音の移り行く模様の種類々ありて、各々其音樂上の意味を表はすものなり。而して、この音よりかの音に移れる二音間の距離は、之を名づけて音程(Interval.)と云ふ。

試に、「君が代」の曲節につきて、其音程を吟味すれば第廿五圖の如し。

【圖 五 廿 第】



音程の大小は、二音間の度数によりて之を定む。例へば「ハ」より「ニ」に至るものは、之を二度音程、「ハ」より「ホ」に至るものは、之を三度音程と稱するが如し。

普通の曲節(長音階に成れる曲節)に使用せる音程には、左の種類あり。

第一度音程は、又、完全一度音程(Perfect unison)とも云ふ。同度にして、其二音間には距離なきものなれども、古來之を音程と見做せるが故に、本書にも之を算入したり。(第廿六圖)

第二度音程は、一度に互り、長・短の二種あり。長二度(Major second,)は一音を有し、

短二度(Minor second,)は半音を有す。(第廿六圖)

第三度音程は、二度に互り、長・短の二種あり。長三度(Major third,)は一音を有し、短三度(Minor third,)は一音半を有す。(第廿六圖)

第四度音程は、四度に互り、完全・増の二種あり。完全四度(Perfect fourth,)は二音半を有し、増四度(Augmented fourth,)は三音を有す。(第廿六圖)

第五度音程は、五度に互り、完全・減の二種あり。完全五度(Perfect fifth,)は三音半を有し、減五度(Diminished fifth,)は三音を有し、

【圖 六 廿 第】



を有す。〔第廿六圖〕

第六度音程は、六度に互り、長・短の二種あり。長六度(Major sixth.)は四音半を有し、短六度(Minor sixth.)は四音を有す。〔第廿六圖〕

第七度音程は、七度に互り、長・短の二種あり。長七度(Major seventh.)は五音半を有し、短七度(Minor seventh.)は五音を有す。〔第廿六圖〕

第八度音程は、又完全八度(Perfect eighth.)のみならず、八度に互るものにして、常に六音を有す。〔第廿六圖〕

(1) 一度・四度・五度・八度の四種にのみ、完全音程の名稱を附する所以は、其相對二音を同時に奏唱する時、共によく人耳に調和するを以てなり。

(2) 以上十四種の音程は、之を普通音程とも稱し、音樂上最も多く使用せらるゝものなり。

(3) 此十四音程以外、嬰・變記號によりて、普通音程を増減したる諸音程は、總て之を變體音程と稱す。

(4) 八度以上の二音間は、總て之を複音程と稱す。而して、之を九度・十度音程とも稱することあれども、それらの度数より七度を減じて、單に九度は二度、十度は三度音程と見做すを常とす。

(5) 嬰・變種の調子記號によりて、生じたる諸音程は、嬰・變記號の有無に關せず、總て普通音程なりと知るべし。

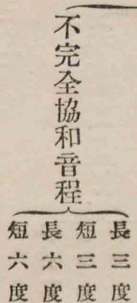
第廿一章 協和音程及び不協和音程

各種音程の二音を同時に奏する時、其和合よく調ひて、吾人に快感を與ふるものは、之を協和音(Consonant.)と云ひ、其音程を協和音程と云ふ。之に反し、其和合よく調はずして、吾人に不快の感を與ふる二音は、之を不協和音(Dissonant.)と云ひ、其音程を不協和音程と云ふ。

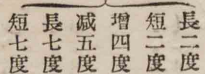
協和音程は、更に之を分ちて完全と不完全の二種とす。左に、是等を表にして示さん。



協和音程



不協和音程



此他變體諸音程は、皆不協和音程に屬す。

第廿二章 音階

唱歌又は俗謠等の曲節に用ひたる諸音を審査し、其主要なる一音「多くは、曲節の最終音に表はるゝものなり」を求め、これを最低音として、その曲節に使用したる諸音の高低に従ひて、順次一列に排列する時は、一種の音列となる。之を名づけて音階(Scale)と云ふ。されば、歌謠ある所には、必ず音階あり。故に、世界の各國、皆各々

其國特得の音階を有するものとす。

諸種の音樂中、吾人の研究を要するものは、歐洲樂と邦樂との二種とす。従つて、左に歐洲樂と邦樂との音階を吟味すべし。

(一) 歐洲樂の音階

近世歐洲樂の音階には、左の二種あり。

(甲) 長音階 (Major scale.)

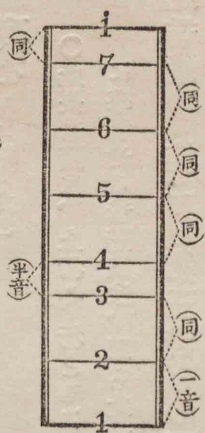
(乙) 短音階 (Minor scale.)

長音階は、第一音より數へて、第二と第四音との間、及び第七と第八音との間に半音程を有し、他は、悉く一音の繼續に成れる八音の一列なり。(第廿七圖)

○此長音階は、上行・下行ともに、同一音程を以て奏唱するものとす。而して、既に學習せる音階圖は、即ち此音階なり。

此音階は、第一と第三音との距離、長三度なるを以て、長音階の名

【圖七廿第】



主要音なれば、之を主調音(Tonic)と云ふ。

主調音の「は」なる時は、之を「は」調長〔短〕音階、「と」なる時は、之を「と」調長〔短〕音階と云ふ。而して、長音階は、「は」調を模範音階として、各種の長音階を構成するものとす。

「は」調音階の主調音より、完全五度宛上りて音階を始むる時は、常に、其音階の第七音に於て、新たな嬰記號を要すべし。而して、此の方法により構成せらるゝ長音階を嬰種長音階と云ふ。

○嬰種長音階の種類は、七種なること、及び嬰種長旋法の主調音發見法は、右側嬰の上方一度なることの理由等は、第二卷第九章を参照して知るべし。

「は」調音階の主調音より、完全五度宛下りて音階を始むる時は、常に、其音階の第四音に於て、新たな變記號を要すべし。而して、此方法により構成せらるゝ長音階を變種長音階と云ふ。

○變種長音階の種類も、亦七種なること及び變種長旋法の主調音發見法は、右側變の下方四度なることの理由も、亦前述の次第によりて知らるべし。

短音階には、又、旋律的短音階と和聲的短音階との二種あり。

旋律的短音階(Melodic minor scale)は、主として旋律を構成するに使用せられ、上行と下行とを異にせり。【第廿八圖】

○即ち上行の時は、第二と第三音との間、及び第七と第八音との間に半音程を有し、他は悉く一音程にして、下行の場合には、第二と第三音との間、及び第五と第六音との間に半音程を有し、他は悉く一音程なるものとす。

和聲的短音階(Harmonic minor scale)和聲は、を構成するため用ひらる。而して、上行・下行共に同一なること長音階に似たり。【第廿八圖】

○即ち第二と第三音との間、及び第七と第八音との間に半音程を有し、第六と第

【圖 八 廿 第】

和聲的 ……	旋律的	
	上行	下行
6	6	6
#5	#5	b5
4	#4	b4
3	3	3
2	2	2
1	1	1
7	7	7
6	6	6

七音との間には、他の音階になき一音半の大音程ありて、他は悉く一音程なるものなり。

短音階は、第一と第三音との間、短三度なるを以て、短音階の名稱を附する所

以なり。而して、其第一音即ち主調音は、我國にては、唱歌法の便宜により、長音階の階名を代用せり。即ち短音階の主調音は、其階名を總て「ハ」音となす。

短音階も亦長音階と同一方法にて構成せらる。而して、短音階は、左圖の如き「イ」調音階を以て其模範音階となし、これより各種の嬰・變種短音階を構成するものとす。故に、旋律的も和聲的も、亦各々長音階と同數なる嬰・變種音階を有するものとす。

【圖 九 廿 第】



(1) 第廿九圖は、兩種短音階を五線上に記したるものなり。

(2) 旋律的短音階は、單音唱歌若くは重音唱歌の高音部に於て使用せられ、和聲的短音階は、重音唱歌の低音部、若くは器樂に於て使用せらる。

(3) 學習者は、各種長短音階の構成法を練習し、以て、嬰・變・本位記號等の要せらるゝ次第を會得すべし。

(4) 短音階を構成するために用ゆる嬰・變、及び本位記號は、之を調號に加へず、曲節中、所要の位置に附するものとす。

短音階の主調音は、常に長音階の主調音の下、短三度の位置にあるを以て、短音階の調號は、別に之を作らず、長

音階の調號によりて、便宜之を記載するものとす。
 されば、嬰變なきは「調長音階の五線には、「い」調短音階の曲節を、
 「と」調長音階の調號を以て、「ほ」調短音階の曲節を記載せらる。於是、
 嬰變各種長音階の調號には、其何れにも、主調音の異なる短音階
 の曲節を記載し得べきものとす。

(二) 本邦樂の音階

本邦樂の音階は、又、之を分ちて左の二種とす。

〔甲〕 雅樂音階。

〔乙〕 俗樂音階。

第	2	1	7	6	5	4	3	2	1
〔長音階〕									
〔圖 冊〕	宮	嬰	羽	徵	角	嬰	商	宮	嬰
		羽	羽			商	商		羽

雅樂は、往古支那傳來の樂(渡
 來後、大に日本化したれども)
 にして、専ら朝廷の儀式、或は
 神祭等に用ひられ、邦樂中、最
 も古雅なるものなり。

雅樂の音階には、又、律旋と呂旋との二種あり。律旋は廣く使用せ
 らるれど、呂旋は主として雅樂用器樂の曲節にのみ用ひらる。

律旋(呂旋)は、宮音を以て其主調音とす。〔第卅圖〕

- (1) 第卅圖は、西洋長音階と律旋とを對照したるものなり。而して、呂旋の音階は、本書之を省きたり。
- (2) 雅樂音階の階名は、第卅圖の如し。而して、雅樂の音名は、次章に之を掲ぐべし。
- (3) 在來出版の諸唱歌中に見ゆる雅樂調は、悉くこの律旋になれるものとす。
- (3) 上圖の嬰商は、階名として其名を存すれども、實用上には古來其用例なし。
- (4) 嬰羽は、曲節の上行する時、徵より續きて用ひられ、其下行の場合には、宮より羽に續く慣例にして、「君が代」の(2131)の如きは、古來其用例を見ざる所なり。

俗樂は、本邦古來の樂にして、雅樂以外の邦樂に附せる名稱なり。
 主として、民間に流行せる琴、三味線、尺八、謠曲、其他俚歌、民謠、流行

歌等、總て此樂に屬す。

○俗樂は、我國民情に適合したるものにして、音樂上より之を見るも、其曲節の發達進歩せること、到底雅樂の及ぶ所にあらず。惜い哉、此樂は、其歌詞概ね野卑淫猥に流れたるため、學習者の日に少きこと、亦時勢上止むを得ざる所なり。

俗樂の音階は、今猶研究中に屬し、一定したるものなし。畢竟、主調音の發見困難なるが故なり。本書には、上原六四郎氏の所説によりて、左に其一斑を掲ぐべし。

- (1) 陰旋。現今都會にて一般に賞揚せらるる、箏、三味線の樂曲は、主としてこの音階に成れり。
- (2) 陽旋。田舎にて専ら流行せる民謠〔舟歌、



田植歌、盆踊歌等の曲節は、概ね此音階に成れり。

- (1) 陽旋は陰旋に比して、一般に快活なる曲節なれば、この名稱を附したるものなり。而して、何れも五個音によりて組織せらる。
- (2) 五音の中、下より數へて第五音に當る一音は、この兩音階に於て、其上行と下行との場合に、高度を異にして使用し居れり。
- (3) 上原氏は、雅樂音階の律旋と、この陽旋とは、全く同一なりと云へり。

第廿二章 半音階と雅樂音名

嬰・變兩記號を以て、白鍵音の間に黒鍵音を作るときは、「は」調音階の八音間は、十三音即ち十二箇の半音程より成る。之を名づけて半音階(Chromatic scale)云々。

半音階は、一種單獨には之を使用せず。常に、長・短音階にて成れる樂曲中に混入して、是等長短音階に成れる樂曲を裝飾するに用ふるものとす。故に、半音階には主調音なし。

○半音階は、通常、嬰を以て上行し、變を以て下行するものとす。

左に、歐洲半音階の階名及び日本半音階の階名、並に其音名と、雅樂音名の十二律とを對照して掲げん。

階名	西洋	階名	日本	○白鍵 ●黒鍵	音名	日本	律十二音雅樂
(di)	(re)	ト #1	レ 2へ	●	(嬰ハ)	(變ニ)	無上 (カミ)
do		ド	1	○	ハ		仙神 (センジン)
si		7		○	ロ		沙盤 (シャバン)
li	se	ユ #6	レ 7ネ	●	嬰イ	變ロ	鏡鸞 (カガミ)
la		6		○	イ		鐘黃 (カネ)
si	le	ツ #5	レ 6モ	●	嬰ト	變イ	鐘鳧 (カネ)
sol		5		○	ト		調双 (テウ)
fi	se	ヤ #4	レ 5エ	●	嬰ヘ	變ト	無下 (カミ)
fa		4		○	ヘ		絶勝 (カミ)
mi		3		○	ホ		調平 (テウ)
ri	me	タ #2	レ 3メ	●	嬰ニ	變ホ	金斷 (カネ)
re		2		○	ニ		越壹 (カミ)
di	re	ト #1	レ 2へ	●	嬰ハ	變ニ	(無上)
do		1		○	ハ		(仙神)

(1) 歐洲半音階の階名は、其上行に於て「イ」の韻に、其下行に於て「エ」の韻になれることを知るべし。

(2) 音名及び階名に於て、其左方は嬰を以て上行せるもの、其右方は、變を以て下行せるもの名稱なり。

(3) 雅樂の音名は、「壹越」より始まるものとす。而して、其高度は、西洋音階の音名「ニ」音に相當せるを以て、「ニ」音より之を配當せるものなり。

第廿四章 各種旋法の發見法

長音階に成れる樂曲を長旋法(Major mode.)と云ひ、短音階に成れる樂曲を短旋法(Minor mode.)と云ふ。而して、同様に律旋法、俗樂旋法と云ふなり。

樂曲を吟味して、其何れの旋法なるかを知らんには、先づ其最始音、特に其最終音を調査すべし。而して、左に掲げたる簡便法を會得せんことを要す。

〔甲〕長旋法。樂曲の何調たるを問はず、之を階名に直して、其最

始音は常に「1」「3」「5」「i」の中にして、其最終音は概ね主調音の「1」なるものなり。時に「5」に終り、又稀に「3」に終るものあり。

〔乙〕短旋法。其最始音は、常に「6」「1」「3」「6」の中にして、其最終音は大抵「6」なるものなり。又稀に「1」「3」に終るものなきにあらず。

〔丙〕律旋法。其最始音は「2」「6」「2」乃至は「3」「5」の中にして、最終音は概ね「2」なるものなり。又時には「6」に終るものあり。

〔丁〕陽旋。前項の律旋法と殆んど同一なり。

〔戊〕陰旋。最始音は「3」「7」「3」、或は稀に「6」の中にして、「3」「7」の何れかに終るものなり。

(1) 短少なる樂曲にても、其一部は長旋法に、他の一部は短旋法に成れるものあり。又或は、其前後は長旋法にて、中途に短旋法を用ひたるものあり。共に注意すべし。

(2) 日本人作の短旋法には、往々陰旋と間違へらるるものあり。是亦注意を要すべしことなり。

(3) 樂曲の中途に於て、短音階の曲節にあらずして、往々嬰、變又は本位記號の表はることあり。これは、一時他の調子に轉ずるものにて、之れを轉調 (Modulation) と云ふ。

(4) 轉調のことは、和聲を學びたる後にあらざれば、其本義を了解せんこと難し。故に本書には之を省きたり。

No. 10.

God save the King

Maestoso.

Henry Carey.



1. God save our gra - cious King, Long may King - Ed - ward reign,
2. O lord our God a - rise, Scat - ter his e - ne - mies,
3. Thy choic - est gifts in store, On him be pleas'd to pour,



God save the King. Send him Vic - to - ri - ous,
And make them fall. Con - found their po - li - tics,
Long may he reign. May he de - fend our laws,



Hap - py and glo - ri - ous, Long to reign
Frus - trate their kna - vish tricks, On thee our
And ev - er give us cause, To sing with



Ov - er us, God save the King.
hopes we fix, God save us all.
heart and voice, God save the King

No. 8.

Skipping Pebbles



1. Did you ev - er, ev - er play, Skip - ping peb - bles
2. Fly, my peb - bles, as on wings; So the swal - low



on the bay, On the qui - et wa - ter?
dips and sings, Skip - ping on the wa - ter:



Hop, hop, hop, ev - er hop, Hop a - way!
Hop, hop, hop, ev - er hop, Hop a - way!



hop a - way! Skip - ping on the wa - ter.
hop a - way! Skip - ping on the wa - ter.

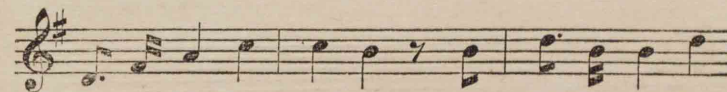
(No. 3. 4. Omitted.)

No. 9.

My Lamb



1. I have a lamb, as white as snow, That
2. It seeks and finds the ten - drest flow'rs Of
3. And when it has its break - fast made, And



to the past - ure go - eth; So tame it is, so
pur - est white and yel - low; It crops the grass be -
will no long - er wan - der; It lays it down in



kind, so good, No harm it ev - er
neath the bow'rs, And loves the fruit so
some cool shade, And seems to rest and

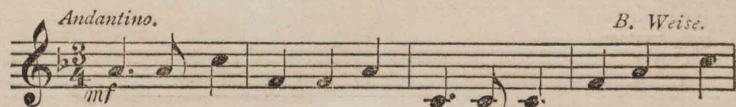


do - eth, No harm it ev - er do - eth.
mel - low, And loves the fruit so mel - low.
pon - der, And seems to rest and pon - der,

(No. 4. 5. Omitted.)

No. 6.

The Postman



1. Lis - ten how gai - ly the post - man is blow - ing, He
2. Mer - ri - ly has - tens he on - ward still blow - ing, So



brings us our let - ters from far and from near,
faint - ly so sweet - ly so low and so clear.



Quick - ly for now he's here. Quick - ly for now he's here.
Ech - o a - lone we heare, Ech - o a - lone we heare,



Tra - ra Tra - ra Tra - ra - ra - ra.
Tra - ra Tra - ra Tra - ra - ra - ra.

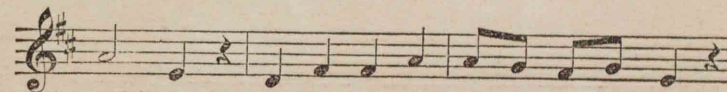
No. 7.

Sing, Thou Merry Bird

(No. 3. Omitted.)



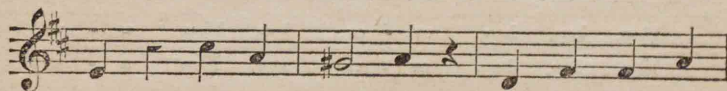
1. Sing, O sing, thou mer - ry bird, As you fly so
2. Hum, O hum, thou bus - y bee, In the fra - grant



light - ly; Sing your song of joy and love,
bow - ers, Gath'ring in your hon - ey store



While the sun shines bright - ly: Gai - ly swing - ing on the bough,
From the sum - mer flow - ers; Hum a - way, may bus - y bee,



Of no sor - row think - ing, Sing un - til the
Hap - py lit - tle rov - er, Thro' the gar - dens



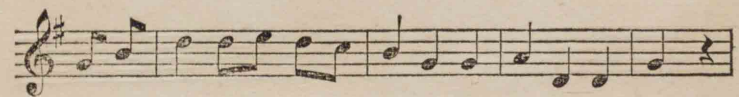
bright, red sun In the west is sink - ing.
bright and gay, Thro' the fields of clo - ver

No. 4.

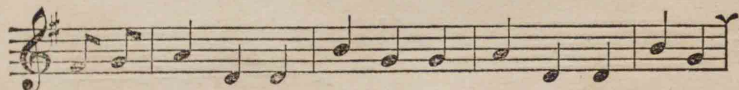
Making Honey



1. Oh say, bus - y bee, with-er now are you go - ing?
2. Oh say, pret - ty done, with-er now are you fly - ing?



Whith-er now are you go - ing, to work or to play?
Whith-er now are you fly - ing, to Lon-don or Rome?



"I am bound to the gar - den where ros - es are bloom - ing,
"I am bound to my nest where my part - ner is sigh - ing,

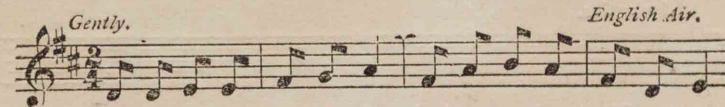


For I must be mak - ing sweet hon - ey to - day."
And wait - ing for me in my dear lit - tle home."

(No. 3. Omitted.)

No. 5.

Cradle Song



1. What does lit - tle bir - die say, In her nest at peep of day?
2. What does lit - tle ba - by say, In her bed at peep of day?



Let me fly, says lit - tle bir - die, Moth - er, let me fly a - way.
Ba - by says, like lit - tle bir - die, Let me rise and fly a - way.



Bir - die, rest a lit - tle lon - ger, Till the lit - tle win - ds are strong - er.
Ba - by, sleep a lit - tle lon - ger, Till the lit - tle limbs are strong - er.

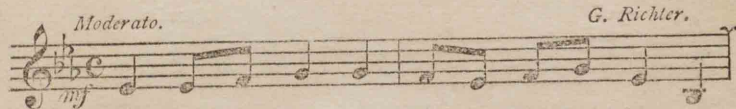


So she rests a lit - tle lon - ger, Then she flies, she flies a - way.
If she sleeps a lit - tle lon - ger, Ba - by too shall fly a - way.

(No. 3. 4. Omitted.)

No. 2.

My Flower



1. Some one gave to me a flow - er,
2. Sun, be on my flow - 'ret shin - ing!
3. How I long to see thee blow - ing!



Which I plant - ed in an hour, Wa - ter' d, nour - ish'd
 Cloud, be on it gent - ly rain - ing! Love - ly flow - er,
 Dai - ly in the gar - den go - ing, Thus I speak, and



day and night: Tell me tru - ly, did I right?
 raise the head! Ten - der plant, be not a - fraid!
 ask of thee: Flow - er, art thou vex'd with me?

(No. 4. 5. Omitted.)

No. 3.

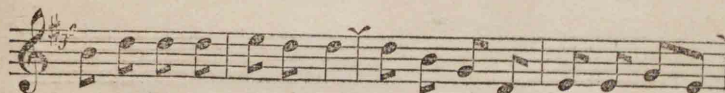
The Fly



1. Ba - by - bye, Here's a fly; We will watch him, you and I.
2. Spots of red Dot his head; Rain - bows on his wings are spread!



How he crawls Up the walls—Yet he ne - ver falls!
 That small speck Is his neck; See him nod and beck!



I be - lieve, with those six legs You and I could walk on eggs!
 I can show you, if you choose, Where to look to find his shoes:



There he goes On his toes, Tickl - ing Ba - by's nose!
 There small pairs Made of hairs—These he al - ways wears.

(No. 3. 8. Omitted.)

Contents.

Part III.

1. The Boat Song	3
2. My Flower	4
3. The Fly	5
4. Making Honey	6
5. Cradle Song	7
6. The Postman	8
7. Sing, Thou Merry Bird.....	9
8. Skipping Pebbles	10
9. My Lamb	11
10. God save the King	12

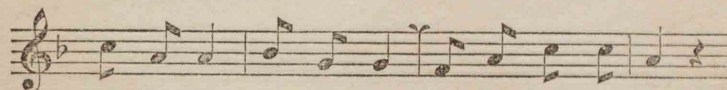


No. 1.

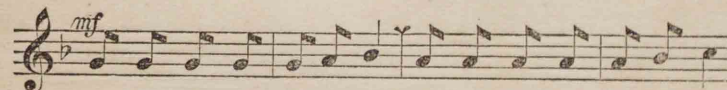
The Boat Song



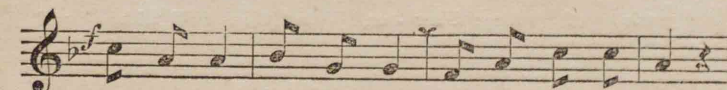
1. Light - ly row! Light-ly row! O'er the g'a's - y waves we go;
 2. Far a - way! Far a - way! Ech - o in the rocks at play



Smooth - ly glide! Smooth-ly glide! On the si - lent tide.
 Call - eth not, Call - eth not, To this lone - ly spot.



Let the winds and wa - ters be Min - gled with our mel - o - dy;
 On - ly with the sea-bird's note, Shall our dy - ing mu - sic float;



Sing and float, Sing and float, In our lit - tle boat.
 Light - ly row, Light - ly row, Ech - o's voice is low!

APPENDIX No. 3.

English Songs
WITH
MUSIC

明治四十三年四月廿一日印刷
明治四十三年四月廿五日發行
明治四十三年六月廿五日再版

定價
壹之卷金參拾五錢郵稅四錢
二之卷金參拾五錢郵稅四錢
三之卷金參拾五錢郵稅四錢

東京市牛込區築土八幡町三十一番地

編者 田村虎藏

東京市神田區美土代町二丁目一番地

發行者 安井清

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

印刷者 青木弘

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

印刷所 株式會社 秀英舍第一工場

東京市神田區美土代町二丁目一番地

東京音樂書院

電話本局二千十三番電信略號〇卜

東京音樂書院發行書日郵税金二錢添御申越次第送呈ス

不許複製

寫謄

發行所

1907.9.17

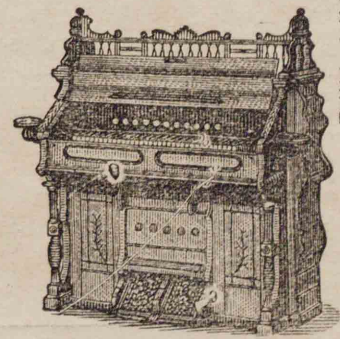
第一等賞牌 第二等賞牌 第三等賞牌 勸業博覽會 國內回國勸業博覽會 第五回勸業博覽會 第五等賞牌 第六等賞牌 第七等賞牌 第八等賞牌 第九等賞牌 第十等賞牌 第十一等賞牌 第十二等賞牌 第十三等賞牌 第十四等賞牌 第十五等賞牌 第十六等賞牌 第十七等賞牌 第十八等賞牌 第十九等賞牌 第二十等賞牌 第二十一等賞牌 第二十二等賞牌 第二十三等賞牌 第二十四等賞牌 第二十五等賞牌 第二十六等賞牌 第二十七等賞牌 第二十八等賞牌 第二十九等賞牌 第三十等賞牌 第三十一等賞牌 第三十二等賞牌 第三十三等賞牌 第三十四等賞牌 第三十五等賞牌 第三十六等賞牌 第三十七等賞牌 第三十八等賞牌 第三十九等賞牌 第四十等賞牌 第四十一等賞牌 第四十二等賞牌 第四十三等賞牌 第四十四等賞牌 第四十五等賞牌 第四十六等賞牌 第四十七等賞牌 第四十八等賞牌 第四十九等賞牌 第五十等賞牌 第五十一等賞牌 第五十二等賞牌 第五十三等賞牌 第五十四等賞牌 第五十五等賞牌 第五十六等賞牌 第五十七等賞牌 第五十八等賞牌 第五十九等賞牌 第六十等賞牌 第六十一等賞牌 第六十二等賞牌 第六十三等賞牌 第六十四等賞牌 第六十五等賞牌 第六十六等賞牌 第六十七等賞牌 第六十八等賞牌 第六十九等賞牌 第七十等賞牌 第七十一等賞牌 第七十二等賞牌 第七十三等賞牌 第七十四等賞牌 第七十五等賞牌 第七十六等賞牌 第七十七等賞牌 第七十八等賞牌 第七十九等賞牌 第八十等賞牌 第八十一等賞牌 第八十二等賞牌 第八十三等賞牌 第八十四等賞牌 第八十五等賞牌 第八十六等賞牌 第八十七等賞牌 第八十八等賞牌 第八十九等賞牌 第九十等賞牌 第九十一等賞牌 第九十二等賞牌 第九十三等賞牌 第九十四等賞牌 第九十五等賞牌 第九十六等賞牌 第九十七等賞牌 第九十八等賞牌 第九十九等賞牌 第一百等賞牌

●專賣
特許
第一種品金七圓以上金三百圓第二種品金三圓以上金貳拾圓第三種品金五十錢以上金貳圓
第四種品金五十錢以上金三拾五圓第五種品金七拾五錢以上金二圓五拾錢

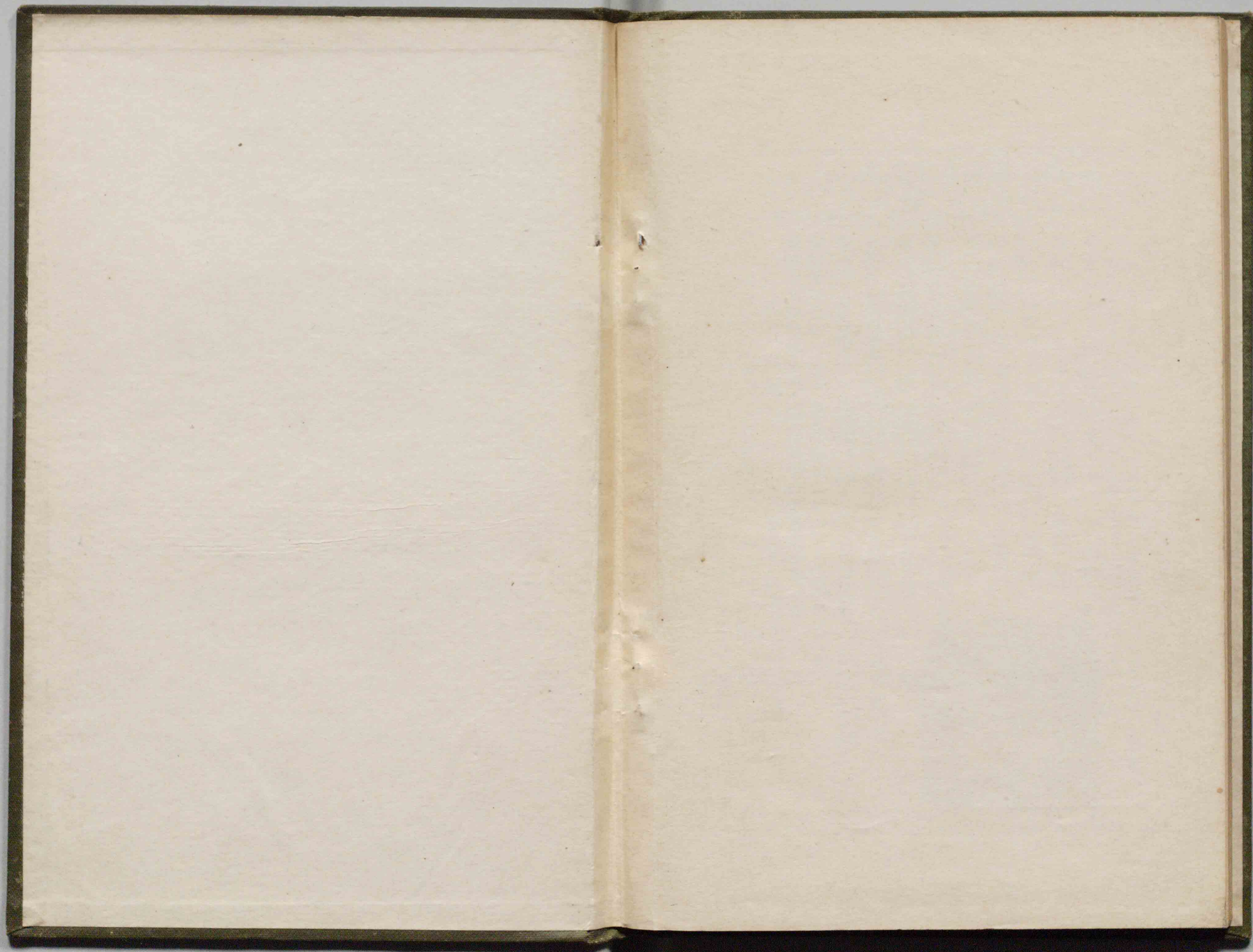
●オルガン 金十五圓以上
●ピアノ 金三百五十圓以上
●銀笛 金三百五十圓以上

●和洋ヴァキオリン 金三圓以上
●金三十錢以上
●ハーマニカ 金三十錢以上
●金三圓五拾錢
●銀笛 金三百五十圓以上

●手風琴 金三圓以上
●樂隊用管樂器太鼓類 金八圓以上
●琵琶 金百圓以上



●新案 たるかた鉛筆削 磨容器、印材、印肉入、削器、金十錢
●特許 實用白墨挾 並製書打 金九十六錢 郵稅八錢
●新案 線黑板壹組 金五圓四十錢以上
●新圖軸掛 金一圓六十錢以上
●軸圖納置器 案圖軸掛 上金二十圓迄
●小學校用計數器 三十五錢七十錢二圓
●物理化學器械 並ニ藥品類 小學讀本用器械標本類
●博物理學標本及摸型用品 體操運動器械器具類一式
●宮内省御用 樂器教育品業
●東京市神田區美土代町二丁目一番地
●韓國東宮職御用 樂器教育品業
●諸官衙學校御用
●安井樂器校具店
●振替口座一八〇電話本局二〇一三



広島大学図書

0130449395

